



(左から)倉橋典夫仙北市副市長、小沢市長、木村代表取締役、松井三郎掛川市長、細野道仲多治見市経済部長

「茶文化プロジェクト4市の逸品をセットで」

静岡県掛川市、秋田県仙北市、岐阜県多治見市と本市が、茶文化産業の振興を目的に取り組む「最高の技 茶文化プロジェクト」。同プロジェクトで考案したセット商品「木村ふみセレクト」の発表会を2月6日、東京ドームホテルで行いました。食環境プロデューサーの木村ふみ(株)エデュウス代表取締役が選定した「掛川茶」「樺細工トレー」「美濃焼茶器」「南部鉄瓶」というセット内容に、小沢昌記奥州市長は「4市でスクラムを組んで世界に発信していきたい」と意気込みを語りました。



ユーモアの交えながら講演する田面木教育長

男女が共に尊重し合い、互いに協力する意識の啓発を目的に、市は2月6日に男女共同参画セミナーを開催しました。田面木茂樹教育長を講師に迎え、「教育における男女共同参画」いじめ・差別のない世の中へ」と題し、学校現場における男女差別やいじめ解消への取り組みなどが紹介されました。田面木教育長は「男子女子、お互い協力しあうことが小学校生活から必要とされている」と訴え、男女共同参画への教育の必要性を語りました。



調印した基本協定書を手にする小沢市長と廣野雅昭稲瀬振興会長(右)

「16地区センターが指定管理に移行」

市は、2月1日付で奥州市水沢南自治振興会など16地区の自治振興団体と指定管理者制度導入に伴う基本協定を締結し、各団体が拠点とする地区センターの管理運営を委託しました。この協定により、自治振興団体による細やかな住民ニーズへの対応や、地域の特性を生かした事業の展開によって自治力・地域力の増大が期待されます。締結に当たり小沢昌記奥州市長は「それぞれの地域の風土や歴史文化が最大限生かされるよう、市は力強くサポートしていく」と約束しました。



小原会長の力強い言葉は、苦勞の末に得た成果を物語る

市は2月15日、サンホテル衣川荘で市民憲章推進大会・協働のまちづくりフォーラムを開催しました。市が開講した協働のまちづくりアカデミー受講生による活動や北上市岩崎地区青年会「虹の会」の優良活動などが紹介されました。地域活動が全国表彰された同青年会の小原和弘会長は、伝統的なものが何もない中、地域の活性化に取り組んだ苦勞を「地域の絆には理屈はいらない。情熱しかない」という言葉で、人とのつながりがもたらした成果を表しました。

「まちづくり」は「びびっく」



羽田地区センターでトール領事(右)と意見交換が行われた

在札幌米国領事館領事との意見交換会

1月21日、在札幌米国領事館のジャスティン・トール領事が本市を訪れ、岩手県・奥州市・一関市の担当者や、奥州市国際交流協会、羽田地区振興会などとILCの取り組みについて意見交換しました。意見交換会が行われることとなったのは、本市のトマス・アンナILC国際化推進員が在札幌米国領事館を訪れたことがきっかけ。アンナ推進員が領事に本市のILCの取り組みを紹介したところ大いに興味を示し、この日の来県につながりました。

羽田地区センターで開かれた意見交換会では、地区振興会からの「ILCが実現した場合」海外から多くの研究者や家族が当地に住むかもしれない。異文化圏の人を受け入れる際のポイントを伺いたい」との問いに対し、トール領事からは「多様性とコミュニケーション」がポイント。日本のおもてなしは素晴らしいので、きちんと説明すれば大丈夫」との回答がなされました。今後、ILCの実現に向けて、国際協力体制を築いていくことは大きなポイントです。今回の意見交換を通じ、トール領事は「今回の視察内容を(米国側でも)共有したい」と述べました。

ことしも中学生が最先端科学を体験

市教育委員会では、13回目となる中学生科学体験研修を1月5日から2泊3日の日程で実施しました。研修には市内中学校の2年生31人が参加し、宇宙や科学の最先端の研究に参加して



東水沢中学校2年 佐藤 縁里 さん(14)

初めてKEKに行きましたが、施設の大きさに圧倒されました。国際的な取り組みが行われていることが印象的で、ILCが岩手にできるとことは本当にすごいことだと感じました。将来の夢はまだ決まっていませんが、医療や物理など理系の分野に興味があります。ILCを通じ、奥州市が素晴らしい所ということがアピールできればと思います。

生徒たちは、茨城県つくば市にある宇宙航空研究開発機構(JAXA)や高エネルギー加速器研究機構(KEK)などを訪問。JAXAでは、施設見学のほか、宇宙開発の取り組みなどについて説明を受けました。KEKでは、測定器や加速器を見学したほか、

本市出身の小野正明名誉教授の講義などを受けました。1月25日に江刺総合支所で開催した報告会では、生徒たちが5つのグループに分かれ、研修の成果を報告。研修先で学んだことを堂々と発表し、今後の学習に生かしていくことを誓いました。



KEKの超伝導リニアック試験施設を見学



教育長、学校長ほか関係者へ研修成果を報告



市が実現に向けて取り組んでいる国際リニアコライダー(以下、ILC)計画について最新情報をお届けします

希望のひかり

第34回

本コーナーでは、ILC計画について皆さんからの質問にお答えします。電子メール、ファクスでお気軽にご質問ください。お問い合わせ先 本庁政策企画課 ILC推進室(内線4112・4115、TEL 025533、EILC@city.oshn.wate.jp)